丹鶴叢書

九條右大臣集
御堂関白集
藤原家經朝臣集

093.1
2006
佛教大学図書館
2005494259

帝國圖書館藏

丹鶴叢書　丁未帙

從五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

帝國圖書館藏

九條右大臣集

九条殿（師輔公）已位ゐなりて後ひさしくなりぬるに、中納言のうへ、はきぬとのうへ、はべる大臣ゐなる日中納言にて二位ゐなりたまふのきぬをつかはしたる

後撰雜一

思ひきやそらにたちぬきぬ人のいろとぞきむとは

返し

同　廣明朝日

いそのかみ　ふるのやしろの　ほとゝぎす
なくこゑ　ちかし　ちとせの　ちかひ

新勅撰恋四

むさしぬの　ゆきのまに　ゆく　ほとゝぎす
こゑ　ばかりこそ　ゆく　へなりけり

新古今恋三

ほとゝぎす　なくこゑ　ばかり　ゆく　へなる
ゆくへ　しらぬ　ものは　なにぞ

後撰秋中

ながめ　ぬる　ゆふべ　ばかり　ゆく　へなる
ゆくへ　しらぬ　ものは　なにぞ

続千載雜中　万代雜三

ふるさと　の　ゆく　へなる　ものは　なにぞ

続千載雜中

ふるさと　の　ゆく　へなる　ものは　なにぞ
ゆく　へ　しらぬ　ものは　なにぞ

新千載恋一　久安百首

[illegible]

とけよ　新千

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

続後拾恋二　[illegible]

万代恋四

[illegible]

続後拾恋二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九条

新勅　梅花と題して中務卿親王もとふつらの

九条　右大臣

中務集　人のもとより正月一日

[illegible]

後撰恋三

[illegible]

新勅春上　[illegible]勅

中務集　中同

[illegible]

きりぎすなくもうしとて秋ふかし

秋のよのあけてのはるかすかさいはなかすまはなかすやそらん

そ

あるとみるはなかのそふさとふかうとてそらんあるとくらう

きいなくんてんのすきふむすむつ

続千載秋上

白雲のおくるるとおもくもすきわたるそらのかすみぬるか

万代秋上

小野のめはものきこえをる

新きそるあつるをさいはなかしまのまつむかふかふそをる

そ

よひとにうめるをのとはるのはてをきぬをとはるすや

九条

万代恋五

秋の雨のはてはるかの雁をくいかるかやもぬるん

まつ

とりとふこそ秋すやもとうはおもあしもやをふこそ

このこそをくく女

こそくはの中をもつもあのまるれぬることとをふ

女イ

はるのこそふをくとはる

後撰恋三

あらつけさをこそのこ八をもをんふをのうこのみこそ

後撰恋三　女四のみこ

後撰　西四条ゝゝの家の[illegible]女四のみこ

[illegible]

又ととこ

[illegible]

[illegible]

後撰賀

[illegible]

新続古別

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まことの

徒後撰恋一
おとさしの[illegible]

新古今恋一
あることのみ[illegible]

続後拾恋一
[illegible]

万代恋一
[illegible]

ゆるさぬものとたゝかるるをこそ[illegible]

まことの

[illegible]

続後拾 女[illegible]
ける 万代同

[illegible]

との

[illegible]

うるる

[illegible]

まこと

新続古恋五
拾 新続古
[illegible]

かゝ

[illegible]

又

あさねがみとけてのちはいかばかりかはるものとはしらずとのみぞおもふ

又

続後撰恋四

はかなかりしかりのこころをみるはてにいとしのびしらるるかな

いとしのびしらるる人 続後

あるべしとは

はるばるの雲のうへにてをぎのはのなびきもあへぬ心ぼそさ

とのもえつきはてぬ

物思ふものいきつかぬとおぼえぬるかなしきかなん

九条

新勅 貞信公の子息侍従のもとの家にまうでてまかりいでにけるみ侍りける

新古今雑中 冬の比大将にまかりあはせてあくること待りけるあけがたしかりける 東三条入道 関白太政大臣

新古今恋四 中務集

いつとてもかはらぬものを月はいかばかりあくるものとなげきそめけん

同じ人のもとにて

新勅雑三

おもかげにうつるはなのかをとたのみけりかくてとまりぬるかな

あしのあくるいとま 新勅

朱雀院のこうとのにうゑたまへりけるおもてをとりてかきつけはべりける

ひとつとてうつしてしかばかはりけるかな

えん

かくるをもあるとけるものとはまりぬるかな

あるべきことをえしらでうつしおくとのあるをもて

てまのいりてまかりぬ

[illegible]

まつ

新勅恋二

[illegible]の秋の[illegible]と[illegible]と我が[illegible]

[illegible]

[illegible]

新勅　天暦八年おほきさきの宮の歌合に五月五日に菖蒲をせさせたまふ　橘のときのあけこのかみ

後撰　女四のみこの宮の歌合に五月五日に菖蒲

続後拾哀

日のけ　続後拾

新勅雜三

後撰哀

後撰哀

後撰哀　内侍のかみ

後撰雜三　左大臣

後撰雜三　ふよみ人しらず

後撰恋六

後撰恋五

[illegible]

後撰春下　三条右大臣

[illegible]

同　兼すけの朝臣　拾後

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後拾遺恋四　紀しゐ八盛かね

[illegible]

新千載離別

[illegible]

後拾

[illegible]

作入撰集源家集歌

大輔

[illegible]

後撰秋中

[illegible]

大輔

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同恋一

[illegible]

同恋三

[illegible]

同雑三

[illegible]

延法師

同

[illegible]

同哀

[illegible]

在于上

拾遺賀

[illegible]

新勅春上

[illegible]

在于上

続後撰恋三

[illegible]

続古今春下
百首のうち桜中に
咲ぬるかぜの花ふきまぜて雪にぞ散る春の夕暮
こもれるこの中つ
新続古恋三
松風のまがきをとぶらひ人とてとはぬ人とてとはぬ夕暮
在于上

関白二字不私改

御堂関白集

三位中将春日の使ものしたりけるに左兵衛督の
ちとせつるまつのしらゆきふるとかは
後拾遺雜五 栄花物語初花巻
なにはつのはるのはじめにかはるとは
公任集
左兵衛督イ
後拾遺同 栄花同 前大納言公任 て後拾公
なにとつめばかつるゆきとぞちりまがふ
公任集 も後拾
花山院
栄花同 十三巻
我さかりいかにかはるとかはるとは
の後拾
左このゑ 近ゑイ
三巻

続後拾雑上

こゝろあるやさとむらむとてつまふんのまつのうへにすゑ
ふるとつかのごとくにあつまりとゞまるくものこゝろをも
きるとふかの沢中わたるもきりとつるへみたく
うきしく俗ロさうかといひくおうらひとの詠し
あとするかとふまもきゆうまつまのとをあまとて
ロさなしとてきしくいまこかとまみんきまと
勢のしとてきぬおのこゝろをいつれもつるへ
こもつるひめるとあをてまこゝをしてこゝムまのん
ともあるつるといつてこゝろうけてやとく
雲のうへまの雲をいをつる花んつるやあるこゝ

とゝ
ろ
ひ
ま
て
し
あ
こ
ま
と
か
こ
と
と
の
ま
と
ア
ア
ア

のもとにはつかるとよりみて梅のいとうしてとを
はるかにきのふとそ
あこんのそとをとむ梅をいまのしほりをきれぬらん
よし
ひとりあさ霞はるかに梅のそとをうしてとをとむ
三月廿五日ふ後のうへ所に行ひおとく
やうとをせるとをとをとをもとをふ
春霞はるのうとをとをとをとをとをとをとを
はるとをう
春霞はるの梅をとをとをとをもとをみえ霞をとを

御堂

四月一日弁尼より
ことをあまふまをとをとをうをとをうの音をとをとをとを
はるとを
うををのをかをくをとをれ夜をおをつををのををををとを
廿よるのをふ後よりいちをををををぬとを
てをををををとををををををををををををを
ををををををををををををを

七月八日ながつきなのかのよ

つゆしらぬ　ながつきなのかのよ　ながつきなのかのよ

続千載秋上　選子内親王

露おきてあかるる秋とおもへども　天のかぐやの月ぞすさまじ

新続古秋上

天のかぐやの月ぞすさまじ　新続古

あかつきの月　四イ　イナシ　又イ月

もろこしの月　ものイ

ほとゝぎす　ど玉夫

秋の夜の月　ろ玉夫

秋ふかき山のすそ野の草ゆゑ　露ぞ　玉葉恋四　万代秋上　夫木十

ほのぼのとあけぬる秋の風の音に　ほのぼのとあけぬる

きりぎりす　花の色はうつりにけりな　玉葉雜三

ながめ　も玉　う玉

いたづらに　ふる玉

ながめ　る乳玉　玉月

木の葉もちる秋の音ぞ　ものさびしき　ヘイ

ものさびしき　ヘイ

うゑ　ど玉

かへのまたのこゝろのまゝとハ[illegible]あのふとやふあるへ
四月三日敦[illegible]
きひつくらゝ
[illegible]
つゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

故イ
こがねのうつきをうつしてうるはしうもよう
風のまうきけしきをみるも秋ふかき山の木の葉をもとへてやまし
はるとうの
秋ふかき山の気とうつしとのもてちる紅葉ふけて
あつまのうくに時雨ふいきけるかふしてれ
のいろいろをまきてある山ふもとやうとうてせう
しやうのきみ来のすけまくれのまをるつて
音をすてとのうくあるこのく
芋紙をこのむとうる我箱ふ時雨ふるきるきのうい人
七月きるとに一条とのうくく石ふるこも

御堂

ふイ
ふるとうまつて三月ふるうるこも春ふるとを日
ふイ
うくく春ふうくあるを内侍のんのとのつて
人をのみ見ひやるまふひうるを周ふうるはてぬりあき
はるとうまし
ふいまてもゆきもかうてお坂のうるの新てをこのやハイるん
荷花ようを
ゆるのあををぬをもみを身紅いうるを花ようをてをれん
はるとうの
うもあひをゆるをふもあてんのまいもをうまあるうう
内侍のかんのとのひううきをうをはをはみあを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内侍のかんのすけよりとうのみこの
新千載賀 枇杷皇太后宮
なりたまひしのちのはつかのよるまゐりたまへりしに
新後拾夏 同
はるのつごもりの
新千載賀
おりからもてはやされるあやめの根をたまはりて
新後拾夏
たまはりし後の朝のうたをかきてつかはす
おりからもてはやされるあやめの根をたまはりて
はるのつごもりの
あやめをもてはやすとて
かねをこそ根にかけしかはるらめ
つるのとしをつのるとて

新古今雜下
あきのみやこの
新古円
はるのはてのころ
なのはなのさかりなるをみてつかはす
新古円
はるのくれにこそ
はるのくれにこそ
はるのくれにこそ

以下缺諸本同

一本奥書

鎌倉於旅宿藤谷殿被見御堂大殿集予始而見之則書写之此本者従故禅門之時所持云々雖然不分明本欲以證本可校合者也

嘉元二年二月廿七日　判

家經朝臣集

敷上人のみあるときこゆるふもとにあるあり尼

みるとしたしたしたし

山桜ちるふるさとのこのしたにはるはまくもみゆる宿のふ

ちのようにてるみちるるく

詞花雜下　かさしにおれのうつるくみるはなにそなりてはのものるみたる

玄々集　極しるる泉為業続時　極一字　ホル

古本一字抄　風とてるみもみちちるくこのもふはんるもはるはるう　ちり一字　ヒ旦

大井河為業流

新古今冬

くらもと舟おろすこうにをみなへしのあるまてくる大ゐのうみ

九月廿九日惜秋

秋とゝろとむんまつせをやこうゝあるゝあるとてこゝ

山家梅

きもむゝのゝゝのうとゝゝさのうゝのゝさゝまるをみゝ

暮晩霧

日もくまぬゝゝゝゝてゝをゝゝもみゝゝゝの

玉葉雜一　万代夏

夜月のまつゝゝもゝまつ

緑よるゝもみるゝゝゝ夜の秋月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

巻玉万

五月法花懺法詠空言有所

家經

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

伊勢大輔集　あきの心をよめる　つゆのもとにちりしをみて　きりぎりす

返し　二首

人をみるもとゝはしらぬ小のあやしくもとゝはるゝ秋のつゆかな

秋ふかき山ざとにすむ人にとはゞ　こたへぬ虫の音にぞなきける

伊勢大輔集

やまたちとまる

うらさびしくなりにける山ざとの夕ぐれにこそあきはしられ

同集

ある女のもとにふる雨のあるをとゝとゝ

つゆやふるらむ

家任

錫杖寺

万代歌

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

後拾遺別

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

後拾

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

ちはやこの月のとうとき山ぶしの佛になるといふなるべし

[illegible]

あきかぜはゆめ[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]

金葉雜上

ゆく[illegible]

[illegible]

続詞花秋上

[illegible]

西山寺にて二[illegible]

[illegible]

[illegible]

家經

於西京詠山家秋月

[illegible]

山[illegible]

[illegible]

於西京詠百首和歌

[illegible]

女のもとに

[illegible]

女のもとに

[illegible]

あはれとふるつゆのふるとうらとてみるとみるも
白いの花のさふらう姫女のもとのやる

新古今冬

ふるさとのそのもやもとまぬんもあはれともみるものかりぬる

十月（十九）のあるてのるくいてよと女のもとへ
いひるふいてとい
恋ともぬあるているよ月（ふる）新の事のやそぬとまもんもむ
女のもとへ
いてもの
あるて
玉葉恋二

いてもやみるぬることとてんこのこのこのこのこのこのこのこ
うもむるとをうくいのもとへいひる
人ところをとをきこしたちもの
家恒

ある人の詠よるとるおとをとをとをあるとをんのく
いてを
那とをいておるあんやみるんよりをこゆるくとをきん
を
おをつるかをきのををとゆるをををを我
かをのしものをやろるある女のまるるあひる
をををを

返し　[illegible]

[illegible]

[illegible]

卯花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

返し

[illegible]

五月[illegible]の日[illegible]とある[illegible]

[illegible]

後拾遺雜五　伊勢大輔

[illegible]

伊勢大輔集

[illegible]

[illegible]

五月懺法次第二[illegible]入於靜宅

[illegible]

思惟此經

流詞花叙　塵袋詞

おもしろみなくこのもし時なきをそこれはほもそそそ

晩夏二首

詞花夏

風ふけとしのこしくるふるみのさそ秋ゆくをんもちそそと秋

どこなりとそそあそそ

ゆく秋をいかくもとて夏のぶし咲をハせてよそそ秋の

ある女のはらからとしそそふの京頃のみちとみ

くいひする

いさそそ舟こそ秋ゆと思ひとまさのうら波なまるかりの

ゆ　女

うそそもとおもふてやいさそ舟まもまそそのるんを

同女のもとふ初ふ秋ゆゆるうけとそのい

ひする

いさそ舟まもまもまそ　いつなるもの秋のもの風もふそ

ゆ　女

いさそふねまみや風ふそ　はそうそうもふあそこそ花

ある人そたそそ九月ふるとそうて秋のそ

うもそひてゆる

おそれを夏ふふそもそ舟ふふふ秋のそそゆそ

ね

ふねをるそうむ夏ふやそそ秋のそのそつそぬん

七月七日

古曾戸入道有掃引詞在九条別業右白鶴
以一首于時雪降

家經

一字抹

三月廿日向西八条

詠櫻麦勝象花　序者

一字抹

杜イ

或人の山荘にまかりてとりてまいりたりしに

とりてもちいりの歌と

家任

拾遺のみちつる船の中月とつ歌

悲歎之間無惜放遊被牽好客至東山臥

不能健忍遊月依水知山紫之事而已

我ものの思ひの山のもみちまるなこのつ

為紫

一字抹

もみちのおもてたるつとしれ千葉のさとり而なるこすく

うえんのふちのふかのあるをみて千人のきつてん

道雅三位西八条障子絵亦合

旧跡

かたのかたるとふまあやめるる人まるとそのをとにう
まとときめて人こをとこる

あやめるる人のるるるこまとこりとめるるこをのるてをこる
ひのはかりをこをしをを秋風るるるまてまるまの風をこれぬ
菅秋ををのをとふ事とをとめてをとみちる
つるやをふをてまつんをみをのあるめをこるもふにをつ
家菅をるつををつのをまるをきる
ふををの秋のををのをふるをるいるるをるをるをるをきるん
同三年同五月三日をにつををにつををのつて人
のををるいひやる

此間恐応有缺

をこ□をを□むをを八□かをををふををのをひをうけを
二月はをををふ花京をまを稚をををのをの
秋をををくをををうををををるふ
うををををを稚をををの我のをををまをををれぬをあ為をる
三月ををををふ花を氣は橘のををれるをを
をのひ稚ををまをかをん新ををををなれやはるををる色
二ををををををををををををる五
まをををを稚をををれ詠を我をををぬをををををををを
ある女の人をまをふををををを
花をををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬日於西宮詠行客吹笛　序者有ん

一字抄

[illegible]

秋字

[illegible]

家經

一字抄　秋字　う字　ぬ字

永兼正集十一月十九日為之の哥合月

金葉秋

[illegible]

同五年哥場所一品宮哥合

風雅春中　哥合三番右

[illegible]

万代春下

[illegible]

哥合九番右

[illegible]

八哥合　り四上

後拾遺秋上　哥合十五番右

[illegible]

後拾　哥合同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又やる

[illegible]

於後亜相六条水閣對泉忘憂

[illegible]

夏の夜の月

夏のよの月しいまさらしのもやてのぬるまのふてみてる

秋とまり

秋とのさもるまつ[illegible]

七月さめきみてさ[illegible]

むくまる

[illegible]

[illegible]

[illegible]